

児童は、人として尊ばれる。児童は社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。〈児童憲章より〉



特集Ⅰ

家庭に代わる「代替養育を必要とする
こども」の見込み数と里親等委託率の目標

特集Ⅱ

本園小規模化に向けたタウンハウス建築

「朋」から「つむぎ」へ

～時代の変化と共に～

愛知県児童福祉施設長会 会長
(梅ヶ丘学園施設長)

中屋 浩二



.....

本会が発行し、15年にわたって親しまれてきた冊子「朋」が、このたび「つむぎ」へとタイトルを改めることとなりました。それ以前には、1989（平成元）年に「絆」というタイトルで創刊され、今回が2度目の改題となります。年に1度の発行で35冊を数える歴史は、その年の世相を映してきました。タイトルの変更もまた、時代の変化に即した事情が背景にあります。

近年、働き方改革関連法の施行や、ワークライフバランスの重視といった流れからも明らかのように、仕事と生活の調和を求める動きが広がっています。多くの人々が仕事に加え、家族との時間や趣味、自己成長に向けた取り組み等、多様な価値観を大切にできる基盤が整いつつあります。こうした変化は学生にとっても同様、ライフスタイルや価値観に基づくニーズが尊重される環境を後押しし、率直な声をあげる機会の拡大へとつながっています。

「朋」のページ数は優に100を超え、その制作には、編集スタッフの多大な労力がかかっており、「もっとコンパクトにまとめたものにできないか」という声が聞かれるようになりました。また、主な頒布先である保育士の養成校で学ぶ学生からは「冊子代1000円が捻出し難い」との声も寄せられました。

こうした声を真摯に受け止めつつも社会的養護のこどもたちが施設で暮らしている現状を発信し続けることの意義だけは、決して失ってはならない——その思いは、私たちの中で揺るぎのないものでした。そのような中で新たに「つむぎ」が誕生しました。全16ページというコンパクトな冊子にはなりますが、ひとりでも多くの方に手に取っていただき、「すべてのこどもたちが等しく幸せであってほしい」という願いが伝われば、実際にその幸せが形となっていくことを、心より願いながらここに発行させていただきます。